

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【外国語科】

1. 対象 病弱 中学部

児童生徒の多くが、発達特性による二次的な障害(生活リズムの乱れ、学習の困難さ、人間関係の問題)から心身症になったり不登校を経験したりしている。学習空白や障害特性による学習の困難さがあることから、学習に前向きな気持ちをもつことが難しい、自分に自信がない、または自己肯定感が低い生徒が在籍している。

2. 単元名「Unit 5 Earthquake Drill」(全10時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	have to ～、don't have to ～の使い方を理解する。
思考力、判断力、表現力等	ロサンゼルスに海外旅行に行くには、何を持っていくべきかを考え、持っていくものと持っていく必要のないものを、その理由とともに表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	旅行に持っていくものとその理由を説明しようとしている。

4. 本時の目標

- ・海外旅行に持っていくものを have to～ と don't have to～ を使って発表する。
- ・ can と can't を使って理由を説明する。(思考力、判断力、表現力等)

5. 授業展開【**本時**・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い
ロサンゼルスに旅行に行くには、どんなものを持っていく必要があるだろう。

考えるための材料				
・ALTの自己紹介で出身地であるロサンゼルスについて知る。	・持っていく必要のあるもの、持っていく必要のないものを、その理由を英語で言う。(教師の例の提示)	・タブレット端末やガイドブックで、旅行に必要な物を調べる。	・調べたこと、自分が必要だと考えるものを決める。(ワークシートに記入)	・使用する表現を提示する。 (have to, don't have to)
想定される活動				
・教師のモデルを見て、入れたいものを調べたり考えたりする。	・バッグに入れるものを決める。(ワークシートに記入)	・ジャムボードを見ながら、発表する。		

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
1 have toの使い方を学習する。練習問題を解き、使い方に慣れる。 2 海外旅行で必要なものをインターネットで調べる。 3 自分の考えをジャムボードの付箋に書く。(個人端末の使用) 4 海外旅行に持っていく必要があるものをクラスで共有する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）
・We have to take guide book. I can enjoy sightseeing. / I have to take warm clothes. It's cold in winter there. / We have to take passport. I can't get on a plane. / We don't have to take snack. I can buy it in Los Angeles. など